

令和5年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	公明党
事 業 名	先進地視察 広島県三原市児童館「ラフラフ」整備・運営について
事 業 区 分	①研究研修 ②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

上田市は、児童館・児童センターは社会福祉協議会へ、各小学校区の児童クラブは民間事業者へ指定管理にだしている。三原市が児童館を整備したことで、子どもたちや保護者とどのように連携し運営を図っているか視察調査し、上田市の子育て支援の充実に活かしたい。

2 実施概要

実施日時	視察先	広島県 三原市
令和6年2月2日 10:00 ~ 12:00	担当部局	三原市 こども部 子育て支援課

報 告 内 容	<p>1 市の概要</p> <p>三原市は、広島県の中央東部、福山市を中心とした備後圏域の西端、広島市を中心とした広域都市圏の東端に位置し、県内の2つの広域都市圏のいずれにも属し、2つの都市をつなぐ位置にある。東西約20km、南北約20km、面積は約471.51km²で、広島県の5.6%を占める。人口86,253人</p> <p>2 市の特徴</p> <p>「浮城」の異名を持つ三原城の城下町を起源とする市で、備後都市圏の中心都市のひとつ。山陽新幹線・山陽本線・呉線・三原港・広島空港・山陽自動車道など主要交通が整っており、広島県における交通の要衝である。工業が盛んで、沿岸部には古くから重化学関連企業が、内陸部の工業団地には電子機器関連を中心とした企業が進出している。農業では、沿岸部での柑橘類や山間部での水稲・果樹などが栽培されている。</p> <p>3 視察事項について</p> <p>三原市 児童館「ラフラフ」</p>
------------------	---

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと

感想(まとめ)・市政に活かせること	<p>1. 施設について</p> <p>令和2年8月に、公共施設の再編と中心市街地の賑わい創出・子育て支援の充実のため、市内の別の場所から移転した。移転前の児童館は、18歳まで利用できるのに、中高生の利用が少なかった(1日平均1.3人)ので、新しい児童館は、中高生も気軽に遊びに来て、中高生が活躍できる場所、家・学校以外の第3の居場所にしたいと考え、中高生の意見を聞いて一緒に作ることにした。新児童館をプロデュースする中高生を募集し「新児童館ティーンズ検討委員会」を立ち上げ、月1回程度のミーティングを開催(計10回)し、課題の発見・分析、改善・提案から結果を導き中高生と三原市が「一緒に」児童館をつくった。</p> <p>運営は、ラフラフティーンズスタッフ(中高生、現在メンバーは63人)が行い、放課後や休日に集まり、イベントの企画や子どもや保護者と交流するなど、ボランティアスタッフとして活動している。中高生の活躍に刺激を受けた小学生や大学生、保護者なども加わり世代を超えて活動している。その結果、移転前から、1日平均利用者数は2.2倍、中高生利用者数は10.2倍に増加した。</p> <p>令和4年からは、オンラインによるイベントの開催、交流機会の提供、育児相談の実施。令和5年からは、ラフラフから遠い地域の子育て支援サロンや子育て支援センターなどに職員が出向き、ラフラフで実施しているイベント、交流会等を実施している。</p> <p>職員体制は、会計年度任用職員6人(うち1人はファミリーサポートセンターアドバイザー)</p> <p>2. まとめ</p> <p>0歳から18歳までの世代を超えた交流ができ、子どもに関わる関係機関が連携し、地域全体で子育てを支援する拠点になっていて、まさに理想とする児童館であった。</p> <p>移転のタイミングで、中高生の意見を聞いて一緒に児童館を作るという考えが本当に素晴らしい。中高生は「信頼できる仲間」という言葉を何度も職員から聞いた。熱意のある児童館職員と担当課の職員のチーム力も成功の鍵だと感じた。</p> <p>施設は、旧商業施設だったことから広々としていて要所要所に子どもファーストの視点があり使いやすいそうだった。平日の午前中の視察だったので、乳幼児を連れた親子が数組いたが、子育て支援センターの機能もあることから、ここで中高生との交流を実施しているとの話は、ぜひ上田市で活かさないかと考える。特に、母子と思春期の子どもとの相互交流は大切な視点だと思う。また、異年齢の子どもたちや保護者との交流ができる場があることも上田市の子育て支援に活かせるかと考える。</p> <p>上田市も学校や地域団体との連携を強化する中で、今ある施設での世代を超えた交流の居場所のあり方を考えていく必要があると思う。</p>
-------------------	---



感想(まとめ)・市政に活かせること